

企画展「秋田藩の海防警備」後期展示 開催迫る

古文書倶楽部



秋田県公文書館では、来る十月二十四日(火)～十一月十二日(日)の日程で、企画展「秋田藩の海防警備」後期展示を行います。



【発行】
秋田県公文書館
古文書班
2006.10.1
第11号

本紙「古文書倶楽部」も二ヶ月の号数に。語り尽くせぬ古文書の魅力をこれからも伝えて参ります。乞う御期待!

企画展ポスターで使用した蝦夷地の絵図。現在の地図に近い北海道の形を御堪能ください。

幕末期に一般に売られた蝦夷地の絵図で、地名と航路が入っています。ただし緯度経度の線は適当?



文化4年(1807)作成の江差の絵図です。この頃江差沖にロシア船が出没し、箱館に出兵した秋田藩士に箱館奉行は江差行きを示唆しています。

八月から九月にかけて開催した前期展示とは展示品を大きく入れ替え、後期では蝦夷地の絵図を多数出品します。
秋田藩が文化四年(一八〇七)に箱館に出兵して以降、ロシアの脅威を実感した藩庁や藩士が集めた蝦夷地の絵図の数々をご覧ください。
場所は秋田県公文書館二階 特別展示室
特別展示室の開室時間は午前十時から午後五時までとなっております。
なお、先着百名様には素敵な絵はがきをプレゼントします。前期とは絵柄が異なりますので、どうぞお楽しみに。

只今『宇都宮孟綱日記』第2巻 翻刻刊行校正中

山方家より『国典類抄』 草稿本献上される

『国典類抄』は、江戸時代初期から後期にかけての秋田藩の歴史書で、文化八年(一八一―)九代藩主佐竹義和の下令により、家老疋田斎定綱を総裁に、山方太郎左衛門泰純ら六人を撰者にして「文書所」で編纂されました。そして文政二年(一八一九)清書本が藩主に上納されました。

『宇都宮孟綱日記』弘化二年(一八四五)六月四日条には

山方能登祖父太郎左衛門
へ被仰渡候、国典類抄草
稿数十冊御記録処へ差上
候二付、右為御挨拶銀五
枚被下置候段申渡候

とあり、『国典類抄』を編纂した山方太郎左衛門泰純が藩の記録処へ草稿本数十冊を献上したとの記事があります。

この時山方は八十歳で、二年後の弘化四年に亡くなっております。こうして幕末期には『国典類抄』

は清書本・草稿本の二種類が久保田城内に保管されたことが分かります。しかし、その後清書本の所在は不明となり現在に至っています。

そうすると、秋田県公文書館所蔵の『国典類抄』は、弘化二年六月四日に山方家から藩の記

録処に献上された草稿本である可能性が大きい
です。

やはり、この『国典類抄』はもちろん、当館
所蔵の史料は大切に保存・利用に供していか
なければならないと気持ちを新たにしています。

(伊藤成孝)

古文書こぼれ話

秋田藩上級武士家庭の女子の祝い事

「**「** 江戸和光日記」を通して、和光の長女おれんの場合を見てみます。紙面の都合で、産穢・三つ目の祝・産着初の祝・箸初の祝などは、本紙第6号で述べているので割愛します。

おれん誕生 文化十年(一八一三)十二月四日

初雛之祝 文化十二年(一八一四)三月三日。おれん三歳。和光は御相手番職にあるため、家老・吟味役・膳番・側小姓・城中の女中や親類など、初雛に招いた人に菓子配る。

髪置之祝 文化十三年(一八一六)十二月十七日。おれん四歳。幼児が頭髪を初めて伸ばす時の式。江戸時代は三歳の十一月十五日に行うことが多い。

御宮・祠堂参詣 文化十四年(一八一七)十一月九日。おれん五歳。誕生後初めて産土神に参詣する。一般に男子は三十一日目、女子は三十三日目に行くが、十一月十五日の七五三にする所もある。

紐解之祝(帯解・紐おとし・紐なおし・紐はなし)
文政三年(一八二〇)二月二十九日。おれん八歳。幼児がこれまでの付け帯をとり普通の帯を付ける。一般に男子は五歳から九歳の間に、女子は七歳にする。

元服 天保四年(一八三三)二月二十三日。おれん二十歳。上級武士の女子は一般に下げ髪(髪を後ろに下げるか、髻で束ねて背後に下げる)で、成人のしるしとしてお歯黒をつける。それを世

話する女性を筆親(お歯黒親)という。

袖上げ祝(袖止め・袖詰め)

天保八年(一八三七)二月二十三日。おれん二十四歳。振り袖を普通の袖の長さに縮めることで、成人に達した時に行った。

(越中正一)